特定非営利活動法人

ちば環境情報センター　CEIC

2025．　7．　8発行　　　ニュースレター第３３５号

〒262-0019　千葉市花見川区朝日ケ丘 5－24－2
TEL.090-7941-7655　FAX:043-483-0027　　代表：小西　由希子
E-mail:yatsudasukisuki@gmail.com ， Home Page：http://www.ceic.info/

写真等無断転載禁止

千葉県生物学会研修会 「印旛沼の漁業と漁獲生物＋カミツキガメ駆除」レポート

千葉市若葉区　鈴木　郁也

2025 年６月 29 日(日)に、千葉県生物学会の調査研究部主催の研修会が北印旛沼で開催されました。風がなく、梅雨であることが嘘のように太陽が照りつける日でしたが、熱中症に細心の注意を払って観察会に臨みました。講師は東邦大学名誉教授の風呂田利夫先生で、印旛沼の漁師もされています。印旛沼で定置網漁を行う傍ら、漁獲した生きもののデータをまとめられています。

今回の観察会は、千葉県生物学会の会員や教職関係者だけでなく、小学生から大学生まで幅広い世代が参加した、とても賑わいのあるものでした。

観察会がはじまると、風呂田先生所有の漁船“風酒丸”(かざさかまる)に、若者(子ども)を中心に７名が乗り込み、定置網を引き揚げに行きました(写真 1) 。

写真 1. 定置網を引き上げに向かう若者グループ

６月中は禁漁期間らしいのですが、今回は外来種のコウライギギを捕獲するという名目で、昨晩から定置網を仕掛けていました。事前説明では、特定外来生物のカミツキガメが網に入るのは年に５～６回､50 回に１回という確率にして捕れればラッキーだと教えてもらいました。

みんなで協力して、定置網の袋に溜まった生きものを回収しようとしましたが、なんと巨大なカミツキガメが網につまって取り出せず、複数回に分けて水揚げしていきました。

まず、大型の生きものがトロ舟に運び出され、豪快に跳ね回るコイやゲンゴロウブナの迫力に圧倒されました。外来種ではミシシッピアカミミガメ、ブルーギル、そして 50 ㎝はあろう巨大なカムルチー(ライギョ)がおり、手に取ってウロコの質感やずっしりとした重量感を感じました(写真２)。

写真 2. 定置網にかかったカムルチー

次に、カミツキガメがお披露目されました。捕獲された個体は推定 5～6 歳のオスの成体で、体長(甲長)は 28 ㎝と比較的大きな個体でした。カミツキガメの首は尻尾に近い後ろ側まで届くので、安全のために触ることはせず遠まきに写真を撮るだけにとどめましたが、太い手足にごつごつと猛々しい見た目は、単純な大きさだけではは かり知れない威圧感を感じました（写真３）。

写真 3. 定置網にかかったカミツキガメ

次に、小型の魚やエビ、いわゆる“雑魚”と呼ばれる生きものを観察しました。トロ舟の水面をびっしりと覆う生きものの多くはモツゴ(クチボソ)とスジエビ、テナガエビで、佃煮や甘露煮などに利用される水産物です。また、お馴染みのウナギも中型のものが 3 匹入っていました。他には小型のフナ、ヌマチチブ、オイカワ、ヨシノボリなど。国内外来種では、琵琶湖水系にいるハスやスゴモロコ。国外外来種ではブルーギル、タイリクバラタナゴ、カダヤシ。魚類は計 15 種類が確認されました。

採れた魚の中で、個人的に一番好きな魚は、タイリクバラタナゴです。500 円玉ぐらいの大きさで、まんまるとした愛らしい体形、婚姻色の出た個体は背中側に青緑が光り、腹側は濃い紅赤色の美しい体色で彩られています。カラスガイやドブガイなどの淡水性二枚貝のえらに産卵する繁殖形態を持ちます。日本在来のタナゴ類との交雑・競争が問題になっている中国大陸原産の外来種ではありますが、特徴的な美しい体色が観賞魚として人気があります。モツゴやフナなど素朴な色合いの日本淡水魚も趣がありますが、特別感を感じさせるタナゴのきらめきには胸が躍ります。

写真4．午後は風呂田講師によるレクチャー

午前中は、印旛沼の生物多様性に目一杯触れられた、魚好きには大満足の研修でした。

午後は漁協の会議室にて、風呂田先生による印旛沼の生物と環境のレクチャーがありました。

印旛沼の漁師になった経緯、漁獲した生きものの利用方法から、現場が直面している漁業的な問題。また、これまで蓄積してきたデータによる印旛沼の水生生物相の解説など、フィールドでの生活に根づいた視点と、学識的な視点が織り交ぜられた講演はとても興味いものでした（写真４）。

写真5．参加者一同

カミツキガメの駆除に関しては、本種の強い繁殖力や拡散力に加え、行政との連携不足やとてつもない労力に反して対価が少ないことなど人的な問題もあり、根絶どころか現状維持が精いっぱいであることなど、厳しい現実を教えてもらいました。危険な特定外来生物は処理に特別なコストがかかります。効果的に外来種を駆除するためには、行政が主体的に仕組みを整備していく必要があることを改めて認識しました。

市川市の人工干潟造成問題 part4

市民の要望の一つは叶いそう、でも土砂投入は始まった

市川緑の市民フォーラム 事務局長　市川市　佐野　郷美

2001 年、県の 740ha の広大な三番瀬埋立計画は、県民の 30 万人署名によって白紙撤回された。市民の力によって守られた海とも言える東京湾最奥部の海「三番瀬」。

その三番瀬はラムサール条約の登録湿地とするに十分な条件を備えた海である。その海に新たな土砂投入が、市川市の手によって６月に始まってしまった。

このニュースレターでも、市川市が 2023 年８月に公表した「塩浜２丁目前面の浅海域に、市川航路浚渫土を投入して、100㎧×50㎧ の人工干潟を造成する計画」について、1990 年代から三番瀬埋立計画撤回を求めて動いた三番瀬関連市民団体や、市川市の海にも関心を持って活動していた市川緑の市民フォーラムや NPO 法人行徳自然ほごくらぶが、それぞれ千葉県や市川市に対して人工干潟造成に反対し様々な活動を展開してきたことを紹介した。今回は、その後の様子を紹介したいと思う。

「反対署名」提出、シンポジウム実施

市川三番瀬を守る会、県自然保護連合、三番瀬を守る署名ネットワーク、三番瀬を守る会、千葉県野鳥の会、千葉の干潟を守る会、フィールドミュージアム・三番瀬の会と我々市川緑の市民フォーラムの８団体は、今年３月 28 日（金）に人工干潟造成に反対し、江戸川放水路河口の自然干潟の整備と活用を求める紙署名 2706 筆、オンライン署名 4618 の計 7324 筆分と団体署名７団体分、そして要望書を行徳支所長に提出した。

前日まで市長に直接手渡し話し合う予定であったが、市長から「市川三番瀬を守る会」会長谷藤さんの携帯に直接電話が入り、「公務で時間がとれない。行徳支所に対応してもらう」と一方的に予定が変更された。当然のことだが、行徳支所長はこちらの要望に対し「市長に伝えます」とだけ答えるのみ。その後も市長からは何の回答もなく、私達市民に対する誠実さを全く感じなかった。

昨年６月に当フォーラムと NPO 行徳自然ほごくらぶの連名で市長宛に要望書を提出する際に、日時はお忙しい市長に合わせるので、市長に会って直接手渡したいとお願いしたが、「行徳支所臨海整備課に対応してもらう」という回答で、市民に向き合う姿勢が全く見られなかった時と全く同じであった。だからこそ、今回改めて市長との直接面談の必要性を強く感じた次第である。

署名と要望書の提出の二日後の３月 30 日（日）に市川市文化会館大会議室で開催した「三番瀬人工干潟シンポジウム in 市川」には予想を越えて 130 人もの参加者があり、これからも市川市に対して、人工干潟造成を断念してもらえるよう行動することを確認したが、千葉県は市川市の「塩浜２丁目海岸の浅海域への土砂投入計画」を５月７日に許可したようで、６月に入って、塩浜２丁目の「塩浜三番瀬公園」前面の浅海域で、とうとう土砂投入が始まってしまった。７月中には実験的な土砂投入は終わり、その後海域環境や生物、土砂の動き等についてモニタリング調査が行われる予定である。

市川文化会館大会議室で実施した「三番瀬人工干潟シンポジウム in 市川」(2025 年 3 月 30 日)

「江戸川放水路河口の自然干潟を整備する！」と突然の市長が発表

そのような状況の中で、５月 27 日の定例記者会見の場で、市長は突然「江戸川放水路河口の自然干潟を市民の憩いの場として整備する」と発表した。これは市民団体が要望書の中で求めてきた２つの大きな要望のうちの一つであった。ここで、市民団体の要望を整理しておきたい。要望は大きく２つである。

一つはもちろん「人工干潟造成の中止」である。理由は①日本も締約国となっているラムサール条約の「湿地復元の原則とガイドライン」には「人工干潟は自然干潟に劣ることは明白。生態的に機能している浅海域は保全を優先する」とあり②環境省も愛知県藤前干潟の埋立計画中止の際に「人工干潟は短期的には特定の生物が定着・増殖するが最終的には貧相な生態系に落ち着く」としているからである。

もう一つの要望は、市川市が人工干潟を造成する理由として、「市川市には海があるのに、市民が海

塩浜 2 丁目「塩浜三番瀬公園」で行った
「土砂投入阻止アピール行動」(2025 年 5 月 31 日)

と親しめる場がないから」としていたので、「すでに市川市には江戸川放水路河口に自然干潟があり、すでに市民はこの海に訪れ生き物に触れている。ただし、市民が利用するには安全面、トイレ・水道等の整備が必要なので、その整備をすべき」と要望していたのである。

市長は突然、市民側の要望の一つを飲んだのである。それには感謝したいが、「市民の憩いの場」だけでなく、市川の海の自然環境と生物多様性への配慮は欠かせない。したがって、どう整備するのかについては、今後市川市としっかり詰めていかねばならないと考えている。

５月 31 日(土)には、塩浜２丁目で市民団体８団体が集まり、「現地説明と抗議行動」を行った。私達市川緑の市民フォーラムももちろん参加した。

土砂投入は始まったが、私達はあきらめず、引き続き、新たな署名・オンライン署名を行うこと、「人工干潟造成中止」と「生物多様性を守りつつ、市民が親しみ、子ども達の環境教育のフィールドになり得る江戸川放水路自然干潟の整備」を柱とした第３次要望書を８団体で市長に提出する予定である。みなさん、これからも応援をお願いします。

新浜の話８９ ～マイユンボー（2005 年６月）～

千葉県野鳥の会　市川市　蓮尾　純子

「いきものマップ」の時期には「自然観察案内人講座」や「三番瀬エコツアー」など当時の市川市農水産課の清水課長の肝煎りで実施された意欲的な事業があり、老朽化した導流堤の補修事業も千葉県によって行われました。忘れずに順次触れたいと思っています。

20 世紀末から 21 世紀初頭の時期、ＮＰＯ法人化など大きな変化の中で、黙々と坦々と続けている保護区の管理作業は「水鳥の生息のためによりよい環境をめざす」こと。５月から８月いっぱいは、ただひたすら草とのたたかいの日々でした。

草刈りが一段落した秋から春にかけての時期は、多くの水鳥ばかりかトンボなどにとっても好ましい裸地に近い湿地をつくるべく、丈の高い植物の勢いをおさえるための重機作業が行われます。

ヨシやヒメガマは地下茎をもとに勢力をのばす種類。トラクターの刃先が届くのは 10 ㎝～15 ㎝程度で、20 ㎝から 50 ㎝ほどの深さにある地下茎を細切れにするにはユンボーによる掘り返し作業が欠かせません。

２日間の講習で合法的に使える３トン未満のユンボーは、業者さんからは「おもちゃのユンボー」と呼ばれるかわいらしい重機。お世話になっている曙建設さんからお借りする分には１日 3500 円、搬入・搬出に１万５千円とレンタカー並みの料金でした。それでも限られた予算の中、１週間とか 10 日と日を限って使うのは、お天気と相談しながら、神経をすり減らす日々です。

退職時には退職金を使って中古のユンボーを買おう、と嘉彪と相談していました。しかし、どのみち買うつもりなら、いちばん必要としている今、買ってしまってもよいのではないか。リタイア後に住むつもりで購入していた中古住宅のローン終了もあり、曙建設さんにお願いして中古の出物を探してもらっていましたが、１年以上待っても手頃なものがなく、結局毎年お借りしていた青いユンボーに手を入れて、250 万円で購入することになりました。

実際には、ユンボーを使う作業というのは１年を通じてもひと月分にならないかも知れません。それでもトラクターが泥に足をとられて動けなくなった時や、パイプを埋めたり水路を掘ったりする時など、手元に重機がある安心感は何ものにも代えがたいものでした。ユンボー作業は腰痛の人には不向きですが、座って４本のレバーを操作するだけでアームの上下や回転、ショベル部分での掘削、キャタピラの前進・後退等々すべての作業ができます。講習時には「35 度の傾斜でも倒れないよ」「レバーから手を放せば、動きは止まるから」「キャタピラの接地面積からすると、荷重は人が泥の上を歩くのと同等」等々、大きな重機に対する恐怖感をできるだけ減らして、冷静に平常心で操作するための指導が多かったような気がします。何より、非力な私でも作業ができるうれしさ。

人が歩くよりも遅いユンボー。掘り返しているとツバメがアームをくぐったり、ハクセキレイやモズが寄ってきたりしました。防寒服のポケットにチョコレートを３切れとミカンを３つ入れて、作業に出る冬の朝の高揚感は忘れられません。斜面を無理に登ろうとして車体が傾き、アームを回して何とか事なきを得たことも。ちなみに作業後の泥落としは大変でした。

友の会（現在は行徳自然ほごくらぶ）が千葉県から直接管理業務を受託するようになってから、2018 年 5 月にユンボーも新たに 325 万円で購入したそうで、現在は黄色い２代目が動いています。

2025 年 5 月 25 日、20 年以上も観察舎で苦楽を共にした同僚の宮島君江さんが逝去されたとのことです。豪快な笑いにいつも救われていました。ご冥福を。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2025年　８月号（第３３６号）の発送を　８月　８日（金）10時から千葉市民活動支援センター（千葉市中央区中央２-５-１　千葉中央ツインビル２号館９階）にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか……………………………

住所〒＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ふりがな
氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿Tel＿＿＿＿＿＿

E-mail＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記：毎月１回、A-CEC 会*という県内の自然や生きものについての勉強会に参加しています。メンバーは８名。過去に高校の生物教員や生物調査に携わった面々です。毎回植物を中心に、実物を持ち込んでその生態や形態についてじっくり観察、議論しています。最高齢は 98 歳と 97 歳。炎天下の夏でも駅から 10 分ほど歩いて会場まで来ています。採集してきた植物を観察し、目を輝かせながら疑問を投げかけてきます。好奇心こそが人を支え、その気持ちに年齢は関係ないことを実感します。＊ A-CEC 会：1988～2020 年に、日本各地で自然環境調査をしていた Chiba Ecology Center 解散後、当時のメンバーで立ち上げた勉強会。A は After。　mud-skipper

NPO法人ちば環境情報センターのニュースレターとイベント情報は、リサイクルペーパーを使用しています。　（カット：Asa Okiru）

◆◆◆

下大和田・小山町谷津田だより　－2025 年　7 月　No.281 号－

【活 動 報 告】

＜下大和田での活動＞　写真：田中正彦

第 305 回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い 2025 年 ６月 １（日）くもり後はれ　報告：鈴木郁也

　この日はいつもの観察コースの他に、復田した田んぼや相川さんの畑まで足をのばしてみました。最近雨が多かったおかげか、大型カタツムリのミスジマイマイが活動している様子を観察することができました。

　新たに復田した田んぼでは、ミナミメダカやタモロコなど、ＹＰＰ田んぼと同じ種類の生きものが見られましたが、まだまだいない生き物も多かったです。ＹＰＰ側の水路や山では、オレンジ色の羽が美しいニホンカワトンボのオスと、かわいいサイズのヒバカリと出会えました。

参加者１２名（大人６名、大学生５名、小学生１名）

・・・

第 16 回 下大和田ヘイケボタル観察会「ホタルの光を初めて見た日」
2025 年　６月２１日（土）はれ　報告：Asa Okiru

　これまで、浮遊する光の記憶といえば、子供の頃にバンコクで飛ばしたコムローイだった。空飛ぶランタンが、蒸し暑い夜の空に無数の光の粒となって浮かんでいた。

　炎のように揺らぎながら、音も無く浮かび上がるヘイケボタルの光に、そんな昔の記憶が思い起こされた。日没からしばらくして、ぽつり、ぽつりと現れたその光は、しだいに数を増す。一本の木に集まって電飾のように見せるかと思えば、逃げもせず人の側まで寄って飛んだりもする。子供たちは、光を手で掬い上げるようにしてホタルを捕る。遠目に見るとやや青白く見え、しかし手に取るとケミカルな黄緑色に、腹の節が発光している。「蛍光色」とはよく言ったものだと思った。

　帰り道、対向車のライトがやけに眩しい。観察中は、夜闇に目が慣れていたのだと気づく。うっすらとしか見えなかったお互いの表情も、興奮気味の話し声から読み取れた。環境が変わってしまっても、あの場にいた一人一人の心の中に在り続けてほしい光景だった。

参加者１８名（大人１３名、大学生１名、中学生１名、小学生２名、幼児１名）

・・・

森の手入れ「田んぼの草取りと畑の整備」　2025 年　６月２２日（日）はれ　報告：平沼勝男

　前日が夏至でしたが、それにしても朝から暑い。まだ梅雨のはずですが真夏のようです。熱中症に気を付けながらの作業となりました。

　復田田んぼは完全に干上がっていました。川の堰を直し再び水が入るようにしました。田んぼ周辺の草を刈り払い機で刈りました。すっきり田んぼに蘇りました。畑では、ラベンダー畑の雑草取りと、新たに綿の苗を10本近くうえました。森の中では刈り払い機で下草刈りをしました。観察会の経路やＴ字路までの道路際、水路際の畦の草刈りもしました。最後に全員でシイタケです。新しい榾木を井桁状に組み、日よけシートの覆いを付けました。

参加者７名（大人５名、大学生１名、小学生１名）

＜小山町での活動＞

☆あすみが丘小学校田んぼ「田植え」　６月　４日（月）くもり　報告：江澤芳江

　あすみ小５年生が田んぼにやって来ました。前日までの雨で広場はぐちゃぐちゃでしたが子どもたちは元気いっぱい。田んぼに裸足で入る時も躊躇することなく入って泥ふみ開始！そして１列に並んでの田植えでは深いところもなんのそのでドンドン植えていきます。たくさんのボランティアさんのサポートもあって田植えはスムーズに進みました。元気な５年生が植えた苗が元気に育ちますように。

☆第 236 回 小山町 ＹＰＰ「田んぼの手入れ」　６月　８日（土）くもり　報告：たんぽぽ

　曇りですが蒸す陽気の中、根のはる草やつる草を取り除く人たちと、古代米の田植えをする人たちの二手に分かれて作業を行いました。じっくり育った苗はしっかりとした立派な姿に生長していました。その苗たちは、

優しく、テンポよく植えられると、ほどなく水面に上手に並びました。やわらかな風に一斉にそよぎ、とても気持ち良さそう。この風景、いつまでも眺めていたい！と思いました。
　このまま元気にスクスクと育ちますように。　**参加者８名（大人７名、小学生１名）**

☆大椎小学校田んぼ「草取り」　６月２０日（金）晴れ　報告：高山邦明
　４月の終わりに田植えをした田んぼの草取りに子どもたちが来ました。作業の前に田んぼの自然観察。オタマジャクシ～！ ヤゴ～！ きゃーっ、ヒル！と生きものを見つけた声が次々に上がり、観察トレーは生きものですぐにいっぱいになりました。草取りは稲の株の間を歩いて草を踏みつける方式。久しぶりの素足での田んぼに最初は恐る恐る、でもすぐに慣れてスイスイ進んでいました。終わった人は稲を植えてないフリースペースで泥あそび。腰まで泥に浸かって気持ちよさそうでした。ボランティアの皆さんは田んぼの周りの草刈りをしてくださいました。次に田んぼに来るのは９月の稲刈りです。それまでイネがしっかり育ってくれることを祈っています。

【谷津田・季節のたより】　2025 年　**６月**
＜下大和田町＞　報告　平沼勝男
6/ 1　ウグイス、ヒクイナ、キビタキ、オオヨシキリ、外来生物のガビチョウも加わり谷津田は鳥たちの囀りでにぎやかでした。今年はオオヨシキリが多く感じられます。オオアオイトトンボが林内で葉にとまっていました。今年初めての確認です。林縁ではホタルブクロ咲き始めました。白いウツギの花も綺麗に咲いています。U字溝ではヤマサナエのメスが産卵をしていました。

＜小 山 町＞　報告　た：たんぽぽ　い：碇夕子　高：高山邦明
6/ 2 ホタルブクロが開花、ショウジョウトンボが田んぼに産卵**（高）**、カワトンボが田んぼから次々と羽化**（い）**　**6/ 4** 渡りの途中と思われるメボソムシクイのさえずりが聞こえた、キイトトンボが羽化**（高）**
6/ 5 畦にオオミズアオ（大きな白いガ）の羽根だけが落ちていた、ツユクサが咲く、田んぼからアキアカネが羽化**（高）**　**6/ 8** 林でミズキが花を咲かせる**（高）**　**6/ 9** リスが２匹早歩き**（た）**　**6/12** 田んぼからマユタテアカネやノシメトンボが羽化**（高）**　**6/13** リス横切る。野ウサギ背を伸ばしキョロキョロ（た）、キビタキのオスとメスが餌をくわえて、“ ヒッヒッヒッ ”としきりに鳴く、巣立ちビナへの給餌か**（高）**　**6/16** 大きなアオダイショウ、道を横切る**（た）、**キイトトンボがつながって産卵**（い）、**枝谷津の田んぼで実にたくさんのカワトンボが羽化**（高）**　**6/17** 田んぼから羽化したカワトンボをシオカラトンボが捕獲**（高）**　**6/18** 久しぶりにモズの姿を見る**（高）**　**6/23** キビタキ２羽、追いかけっこ**（た）、**ハグロトンボの姿を今季初めて見る**（高）**　**6/27** 抱卵するメスのキジに遇う。卵は９個、３日後、巣には卵殻のみ、巣立ったのかな？**（た）、**羽化したマユタテアカネをシオカラトンボが捕獲**（高）**
6/28 ネムノキ満開**（た）、**アシ原にオオヨシキリの幼鳥の姿**（高）**　**6/30** ナツアカネが羽化**（高）**

【イベントのお知らせ】**主　催：ＮＰＯ法人 ちば環境情報センター**

＜下大和田谷津田＞　連絡先：小西 TEL.090-7941-7655 , E-mail ： yatsudasukisuki@gmail.com

・お楽しみ会
日　時：2025 年　**７月２６日（土）　１０時００分～１２時**
内　容：普段活動している谷津田で、魚採りやザリガニ釣り、フィールドビンゴなどを楽しみます。
持ち物：長袖長ズボンの服装、運動靴、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

・第 307 回　観察会とゴミ拾い
日　時：2025 年　**８月　３日（日）　９時 45 分～１２時**　雨天決行
内　容：こどもたちの大好きなカブトムシやクワガタムシ、トンボやセミなど夏の虫の季節です。真夏の太陽の下、都市部よりちょっぴり涼しい木々の森と谷津を巡ります。
持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物　　**参加費：**100 円
※7～８月の「森と水辺の手入れ」と「森の手入れ」は猛暑のため実施しません。

＜小山町谷津田＞
▼第 237 回 小山町　ＹＰＰ「田んぼの草取り」
日　時：2025 年　**７月１２日（土）　９時～１１時**　☆小雨決行
場　所：小山町谷津田
※参加ご希望、その他の問い合わせは、ceic.ypp.oyama@gmail.com までお気軽にメールでご連絡下さい。

◆◆